

臨床研究についての公開文書_患者さん向け

研究課題名：「文書が読み手と書き手に及ぼす影響の研究」

筑波大学医療情報マネジメント学では標題の臨床研究を実施しております。本研究の概要は以下のとおりです。

① 研究の目的

本研究は医療の質向上を目指し、カルテのテキストの理想的な記載内容と記載場所の組み合わせを明らかにします。カルテのテキストは医療現場において、多職種が患者さんの情報を正しく十分に共有するための基盤です。昨今はチーム医療や病診連携の充実により、患者さんを診察する前にテキストだけから可能な限り多くの情報を得る必要性や、テキストを読んで理解できない点を書き手に質問することが難しい環境も増えています。それにもかかわらず、書き手に負担ない範囲で、読み手にとってわかりやすい文書がどのようなものか、具体的かつ客観的な知見は存在しません。実験的に文書を設計することで、多忙な臨床現場における多職種コミュニケーションの質の向上を目指します。

② 研究対象者

2013年1月1日から2020年12月31日までの間に筑波大学附属病院を受診された方からランダムにサンプルを抽出した、合計約200人が対象になります。

③ 研究期間

研究期間は(倫理委員会承認日)―2023年12月31日です。

④ 研究の方法

まず、研究対象者のみなさんについて担当医が記載した診療録を、機械的にシャッフルなど行い、実験用のテキストに変換します。

(1)次に、実験用のテキストを医師または看護師に読んでいただき、読みやすいと思うか、役に立つと思うか、などをアンケート形式にて調査いたします。これにより、「読み手に、本当に情報が伝わる診療録には、何がどのように書かれているのか」を明らかにします。

(2)また、みなさんのカルテ上のデータを擬似的に加工し、医師に実験的に診療録を記載してもらいます。このときに、たとえば「患者さんの変化は最後にまとめて記載してください」のように、何をどのように書くべきか指定を行います。指定は機械的に10種類ほど研究者が指定します。その指示に従って記載することで書きにくいと感じるかどうかが、アンケート形式にて調査いたします。

(3) (1)と(2)の結果を組み合わせ、「診療録を記載する医師が負担に感じないのに、読み手の医師や看護師には情報が伝わると評判の良い診療録のテンプレート」を明らかにします。

⑤ 試料・情報の項目

性別、受診情報、入退院情報、傷病情報、検査実施および結果情報、医薬品処方及び実施内容、処置実施および情報内容情報、診療録

⑥ 試料・情報の第三者への提供について

第三者にデータの提供は行いません。

研究資料の保管は研究終了後 10 年間です。

⑧ 研究機関名および研究責任者名

筑波大学 香川璃奈

⑨ 本研究への参加を希望されない場合

本研究でデータ利用を希望されない場合には、ご本人または代諾者の方が、本資料掲載後（掲載日）から 3 ヶ月以内に以下にご連絡くださいますようお願いいたします。代諾者は、未成年被験者の親権者（法定代理人）、被験者の配偶者、成年被験者の子もしくは孫もしくは兄弟姉妹（いずれも成年に達していること）、成年被験者の父母または祖父母になります。同意されない対象者のデータは、上記期間内であれば分析対象から除外します。同意されないことによって将来にわたって本研究に関わる病院における診療に不利益を被ることはありません。

⑩ 問い合わせ連絡先

筑波大学附属病院 医療情報経営戦略部

住所：〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

担当者：香川璃奈（医療情報経営戦略部・副部長）

メール：kagawa-r あつとまーく md.tsukuba.ac.jp あつとまーくを@に変換してください。

電話：029-896-7263（平日 9:00～16:00）